

# 国際社会・地域社会とともに

豊かで夢のある未来の実現に向けて多様な社会貢献活動を展開するとともに、政府や産業団体に対して課題解決に向けた提案や提言を行っています。

## ■ 基本的な考え方

### 社会貢献活動の方針

富士通グループは、豊かで夢のある未来の実現に向けて、ICTを活用してお客様・地域社会・世界の人々と新たな価値や知恵を共創し、地球と社会の持続可能な発展に貢献したいと考えています。

社会貢献活動においては、「ICTの裾野の拡大」「挑戦の支援」「地域との共生」「環境」の4つを柱に、多種多様なステークホルダーと連携した活動を展開しています。



### 2010年度の社会貢献活動の主要実績一覧(富士通)

● ICTの裾野の拡大 ◆ 挑戦の支援 ■ 地域との共生 ★ 環境社会貢献活動はP65で紹介しています。

#### 学術・教育の振興／国際交流

- 富士通キッズサイトの運用
- パソコン組立教室の開催
- 情報モラル教育支援
- ◆ JAISMS(白米経営科学研究所)の運営
- ◆ 富士通奨学金制度の運営
- ◆ 数学オリンピック財団／NPO法人情報オリンピック日本委員会への活動支援

#### 企業スポーツ

- ◆ ■ 陸上競技
- ◆ ■ アメリカンフットボール
- ◆ ■ 女子バスケットボール

#### 文化・芸術活動

- 富士通コンサートシリーズへの協賛
- 富士通コンコード・ジャズ・フェスティバルへの協賛
- 第18回富士通杯達人戦の開催
- 第23回世界囲碁選手権・富士通杯の開催
- 富士通レディースゴルフトーナメントへの協賛
- 川崎フロンターレの活動支援 など

#### 地域活動

- 川崎工場 春祭り
- 沼津工場 茶摘みフェスティバル
- 富士通ソリューションスクエア くすのき祭り など

#### 災害支援

- 宮崎県口蹄疫(2010年5月)
- 中国青海省大地震(2010年5月)
- ニュージーランド地震(2011年3月)
- 東日本大震災(2011年3月)

## ■ 公共政策に関する活動

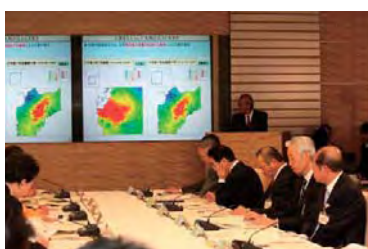
富士通は、政府や産業団体における審議会・調査会へ参画し、社会的課題の解決に向けた具体的な提案や施策の検討、法制度の策定・見直しなど、公共政策に関する活動を推進しています。

2010年度は、約1,300の産業団体や研究会、NGOなどのパートナーと連携し、以下の活動などに取り組みました。

### 災害に強い国の在り方の検討

政府の中央防災会議のもとに設置された「大規模水害対策に関する専門調査会」では、当社役員が座長を務めました。

この調査会は都市を壊滅させるような大規模な水害が世界的に発生しているこ



中央防災会議の様子

とを背景に、3年半にわたって調査・検討を重ね、2010年4月に報告書を取りまとめました。報告書では、首都圏に大規模な水害が発生した場合の被害を具体的に想定し、適時・的確な避難の実現や公的機関の応急対応力の強化など、政府が取るべき水害対策のあり方を提言しています。

### 時代に合致した規制・あり方の検討

法制度による規制は、国民の安全を守り、経済活動を円滑・活発にするという目的のもとで制定されていますが、技術の進歩や社会の変化に合わせて見直していく必要があります。

政府は、行政刷新会議に設けた「規制・制度改革に関する分科会」で時代にそぐわない規制の見直しを進めており、当社役員が同分科会のワーキンググループ構成員を務めています。2010年度の検討結果として、風力発電や太陽光発電、電気自動車用急速充電器の設置に関する手続き簡素化や電気料金制度の多様化の検討など、低炭素社会に向けた規制改革を提言しました。

## 国際社会・地域社会とともに

### 活動事例 ICTの裾野の拡大

#### 国内

##### キッズイベント2010「夢をかたちにするしくみ」

2010年7月、川崎工場において、子どもたちが技術への興味をもち、夢を育む機会となるキッズイベントを情報オリンピック日本委員会と共同で開催しました。4回目となる今回は、抽選で選ばれた約100名の子どもたちが、遊びやゲームを交えながらコンピュータのしくみについて楽しく学びました。

イベントは二部構成で、第一部の「楽しみながらコンピュータのしくみを学ぼう!」では、グループワークでいろいろなデータの並べ替えを試した後、地上絵の上を歩きながら複数のコンピュータが並列して処理するしくみを学びました。第二部の「富士通の技術を探検しよう!」では、スーパーコンピュータとそのアプリケーション、セルフチェックアウトシステム、海底ケーブルなど、多くの製品が展示されている「富士通テクノロジーホール」を見学し、自分たちが学んだしくみがどのように製品に活かされているかを学びました。



富士通キッズイベント2010

##### 幅広い健康ニーズに応える「からだライフ」の提供

富士通は、携帯電話のセンサーとパソコンを使って、体の変化などをクラウドサーバに記録し、日々の健康管理を支援するサービスを2010年8月から提供しています。

さらに2011年6月末から患者数、予備軍数が年々増え続けている糖尿病に対し、患者様を支援するサービスを開始しました。毎日の血糖値管理、生活管理などの自己管理をICTの力で簡単にし、あきらめず、続けられるサービスをめざしています。

今後も、疾病予防・健康増進から疾病支援まで、あらゆる健康ニーズに応えていきます。



##### ウェブサイトを通じて子どもたちに学ぶ楽しみを提供

ICT活用教育などを行っている富士通エフ・オー・エム(株)は、子どもたちに知的財産を尊重するマインドやものづくり精神を伝えるため、山の手総合研究所が運営する特許出願擬似サイト「ひらめきチャンピオン」をサポートしています。

また、ICT人材育成サービスなどを展開する(株)富士通ラーニングメディアでは、インターネット上の漢字情報をひらがなやローマ字に変換する機能と有害情報のフィルタリング機能を搭載した児童向けインターネットブラウザ「ひらがな・なびい」を無償で提供するほか、ニフティや富士通でも子どもたちが楽しく学べるコンテンツを提供しています。

#### 海外

##### 米州 米国

##### 小学校教育への貢献で優秀リーダーシップ賞受賞

北米で通信キャリア向けシステムをはじめとする通信ソリューションを提供する富士通ネットワーク・コミュニケーションズ(FNC)は、所在地のテキサス州リチャードソン市において、小学校への寄付のほか、社員による出前授業、科学フェアや発明フェアでの審判、先進技術を使った授業に積極的に取り組んでいる先生に富士通挑戦者賞を提供するなど、長年にわたって地域貢献に取り組んでいます。

こうした活動が評価され、2011年4月、テキサス州リチャードソン独立学区から、地域に貢献する企業に対する賞としては最高の「優秀リーダーシップ賞」が授与されました。



表彰式でのスピーチ

##### アジア タイ

##### 農村地域の公立学校などへ教育用パソコンを提供

タイでソリューションビジネスを推進する富士通システムズビジネス(タイランド)(FSBT)は、コンビニエンスストアのファミリーマートをタイで展開するSiam Family Martの「若者と教育」プロジェクトに参加し、「若者と教育」プロジェクトへのPC寄贈加しています。その一環として2010年6月にパソコン12台を寄贈し、農村地域の学校に提供されました。



また、FSBT独自の教育支援活動も行っており、2010年7月にはベツチャブリー省のノンマコック寺院に教育用のパソコン8台を寄贈しました。

さらにFSBTでは、設立20周年を記念して、2011年2月にチョンブリ州でマングローブの苗木を海に植えるなどの海洋保全プログラムを実施しました。

国内

高専生のプログラミングコンテストを支援

全国高等専門学校プログラミングコンテストは、全国の高専生が日頃の学習成果を活かし、情報処理技術におけるアイデアと実現力を競う大会です。富士通は、1995年の第6回大会から特別協賛企業として支援しています。2009年には、第20回開催を記念して、企業賞の一つとして「富士通特別賞」を設け、受賞チームには副賞として富士通製パソコンを進呈しています。

2010年11月には、富士通特別賞の受賞チームを川崎工場に招待し、プレゼンテーションと実機を使ったデモや、技術部門をはじめとした社員とのディスカッションを行いました。高専生の皆さんからは、現場での開発やプロジェクト管理の方法など専門的な質問が積極的に出されました。

富士通は、今後もプログラミングコンテストの支援を通して、将来の社会を支える若きICT技術者育成に貢献していきます。



第21回全国高等専門学校プログラミングコンテスト

さまざまなフィールドで活動するスポーツ選手を支援

富士通グループはさまざまなフィールドで挑戦する人を応援しています。

当社社員には、障がいを抱えながらも、トップレベルの活躍をしているスポーツ選手が多くいます。例えば、ウィルチェアー(車椅子)ラグビーや、車椅子バスケットボール、チェアスキーにおいては、日本代表選手を輩出しており、業務とスポーツを両立させながら、日々、真摯に活動に取り組んでいます。

また、毎年大分県で開催されている「大分国際車いすマラソン大会」に協賛しており、選手としても、当社社員が出演しています。

アメリカンフットボール部、陸上競技部、女子バスケットボール部の活動とともに、さまざまなフィールドで挑戦する人への応援を通じ、挑戦への支援を続けていきます。



第30回記念大分国際車いすマラソン大会

海外

米州 | 米国(ハワイ)

ビジネスリーダーを育成するJAIMS(日米経営科学研究所)

JAIMS(Japan-America Institute of Management Science)は、1972年に富士通が全面的にバックアップしてハワイに設立された大学院レベルの教育を行う非営利の教育研究法人です。「日米間のビジネスウェイトが増大する将来に備えて、日米の架け橋になる国際ビジネスマンを養成したい」という当時の社長高羅芳光の構想をもとに設立されました(54カ国から、のべ23,000名の方々が参加)。

現在は、「ビジネスリーダーの育成を通じて、アジア太平洋地域の人材開発と知の共創による新たなコミュニティ開発に貢献する」ことをミッションとして活動しています。



JAIMSの学生達

**WEB** JAIMS  
<http://www.jaims.jp>

アジア

富士通奨学金制度を通じてJAIMSで学ぶ機会を提供

1985年、富士通は創立50周年を記念して、将来にわたって日本と世界をつなぐビジネスエリートを育成する目的で、「富士通奨学金制度」を創設しました。

当初はJAIMSで日本経営を学ぶ参加者への奨学金制度として始まりました。1996年からは、JAIMSの他のプログラムへも適用を拡大、アジア太平洋地域のビジネスパーソンに学ぶ機会を提供し、累計受給者は約420名に上ります(2011年4月1日現在)。

**WEB** Fujitsu Scholarship  
<http://www.fujitsu.com/global/about/responsibility/community/scholarship/>

アジア | ベトナム

ハノイの3大学で学生に奨学金を支給

ベトナムでソリューションビジネスを展開する富士通ベトナム(FVL)は、ベトナムにあるハノイ工科大学、国民経済大学、ベトナム国家大学の3大学に対して、毎年、各校2名、計6名の優秀な学生に奨学金を支給しています。

## 国際社会・地域社会とともに

### 活動事例 地域との共生

#### 国内

##### 「よさこい祭り」を支えるICT

高知県に事業所を置く富士通四国システムズをはじめとした富士通グループは、毎年8月に開催される土佐・高知の「よさこい祭り」において、観客の混雑や競演場・演舞場の渋滞といった問題を「観客」側と「踊る」側の視点から解決しようと考え、ICT技術を用いた「どこいこサービス」を開発・運営しています。

「どこいこサービス」は、競演場や演舞場の混雑状況などをリアルタイムで把握・集約し、インターネット上で情報提供するサービスです。踊り子チームは、この情報を参考に「少ない待ち時間ですむように」「一つでも多くの会場で演舞できるように」踊る場所を決定し、エントリーすることができます。一方、観客もエントリー情報をウェブサイトで確認し、踊り子チームを先回りして見ることが可能になります。このように「どこいこサービス」は、よさこい祭りの効率的な運営に貢献しています。



どこいこサービスご紹介ブース

##### 職場受け入れや出前授業でキャリア教育を支援

富士通グループは、中学生向けのキャリア教育の一環として、職場体験受け入れや出前授業を実施し、働く体験を通じて子どもたちに社会や働く人との交流の機会を提供しています。

富士通デザインが川崎工場では携帯電話デザインの職場体験を受け入れたり、富士通グループとしてNPO主催のキャリア教育プログラムでの出前授業に参加したりするなど、積極的に教育支援活動に取り組んでおり、継続的に各地域でのキャリア教育を支援しています。



中学校への出前授業の様子

##### グループ社員による社会貢献活動

富士通グループでは、多くの事業所でペットボトルキャップやプリペイドカード、切手を回収し、それらの収益金をポリオワクチンや苗木の寄付に活用するなど、グループ各社の社員が身近な社会貢献活動に取り組んでいます。

汐留本社では、2010年12月に国際協力NGOへの支援活動として本・DVDの回収・売却を実施しました。また、同月、富士通ソリューションスクエア(蒲田)では5つのNGO出展によるフェアトレード商品販売会を開催しました。

#### 海外

##### 欧州 | 英国

##### 心臓病支援のためチャリティ自転車走を実施

欧州・中東の通信ビジネスを統括する英国の富士通テレコミュニケーションズ・ヨーロッパ(FTEL)は、2010年10月、British Heart Foundation(BHF:英国心臓病支援基金)への寄付を目的としたチャリティ自転車走を実施。社員70名とその家族15名が参加し、英国ウォリックシャーで50kmあるいは80kmのコースを走破しました。

当日のために就業後にトレーニングを重ねてきたFTEL社員たちは、シェイクスピアの生誕地など素晴らしい景色を楽しみながらコースを完走しました。このチャリティ自転車走により、FTELは7,500ポンド(約100万円)をBHFに寄付しました。



チャリティ自転車走に参加した社員たち

##### 豪州 | オーストラリア

##### 障がい者施設でのボランティア活動

豪州でICTビジネスを展開する富士通オーストラリア・ニュージーランド(FANZ)は、2010年11月、地域の共生・活性化を支援する福祉団体United Wayメルボルンの呼びかけに応じ、社員12名がボランティアとして、障がい者の方々が働く施設High Point Industriesで梱包・組み立て作業を手伝いました。

この活動の目的は、仕事を通して障がい者の方々の能力発揮を支援することにあります。参加した社員にとっても、地域社会との共生や人とのつながりを認識する貴重な機会となりました。



ボランティア作業に参加した社員たち